

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス「とれいん」		
○保護者評価実施期間	令和6年8月1日		～ 令和6年8月30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	19名	(回答者数) 16名
○従業者評価実施期間	令和6年8月1日		～ 令和6年8月30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数) 6名
○事業者向け自己評価表作成日	令和6年10月11日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	広いスペースを活かした活動の提供、バリエーション	広くスペースを使えることを活かしたレク活動や運動機会の提供を行っており、個々の職員が、WEB等により様々な情報収集を行った上で実施内容を検討し、準備を行なっています。また、個々の特性に応じて児童の動きを引き出せるような内容になるよう工夫しています。	実施した活動の中で利用児童の反応等を見ながら、ルールや内容の一部変更を行いながら検証します。全利用児童が参加できるような内容を目指し、活動の目的(5領域に充てた)に沿う形での実施を進めています。
2	部屋数を活かした、特性に対する対応	スケジュールを理解しやすいように活動ボードに内容を示しています。活動の区切りなどの場面変化時には、場所も変えることで気持ちの切り替えや行動の切り替えのきっかけとなるように対応をしています。また、不穏時の対応や静かな環境でのクールダウンが必要になった場面でスペースが利用できるよう配慮をしています。	活動ボードなどにも、写真や絵を利用するなど視覚優位の方にも、伝わりやすいよう準備を行っていきます。また、不穏時などの対応が柔軟にできるよう職員の体制や配置の工夫を継続します。
3	職員間でのスムーズな情報共有の実施、良好な職場環境	終礼を必ず実施し、支援内容や児童の様子への気付きについて、各職員が報告しあっています。情報を共有することで、対応変更が必要な際でも、速やかに実施できるようにしています。些細なことでも声を掛け合い、気づきを共有することで、統一した対応ができるようにしています。	今後も現在の関係性を維持しながら、利用者支援のみならず、インシデントやアクシデントについても、未然に防ぐ対応やシステム作りに主眼を置き、共通認識を持ってもらうことを目指して取り組んでいきます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもとの活動する機会がない。	新型コロナウイルスの流行もあり、感染防止対策として外部との関わりを最小限にしていたため具体的な機会提供を行っていませんでした。また、初対面での他者との関わりが難しい児童もいるため、実施の方法について深められていませんでした。 無理に機会を設けなくても良いのではというご家族のご意見もあり、積極的に取り組んで来なかった経緯があります。	感染症の関係や下校時間などの兼ね合いで直接的な交流は難しいことが考えられるため、共同での作品作りや行事等でのプレゼント交換等の接触しない形での交流を考えていきたいと思っております。 できた作品はWEB等を利用して見てもらえるよう進めてまいります。
2	各種マニュアルが整備されており、緊急時そのマニュアルに応じて対応を行うことをご家族に周知してもらうことが十分ではない。	マニュアルについては随時見直しを行っているところです。保護者様には、モニタリング時等面談した際に口頭でお伝えしていますが、実際に見て確認してもらう機会がないため、周知がうまく図られていない状況であると思われます。	保護者様にも改めてマニュアルの存在とマニュアルに沿った対応について把握していただけるよう、モニタリング時等に口頭での対応説明だけでなく、実物を見てもらいながらの説明機会を設けます。